

東京都職員を辞め、障がい者を支援する団体アプローズを立ち上げた光枝茉莉子さん。
おっとりとした見た目からは計り知れないほどの強さを秘めていました。

Text：水浦裕美 Photo：是枝右恭

不安を抱えながら行動した先に 人のためになり、 自身も輝ける働き方を発見

以前は東京都福祉保健局にお勤めでしたが、安定した職を捨て、なぜ事業を立ち上げることにしたのですか？
光枝さん…都の職員として数多くの障がい福祉施設を訪問する機会があり、障がいを持つ人の多くは安い賃金しか得られず、長い期間を福祉施設で過ごしている状況を知りました。皆さんがもつと社会に出ていけるような活動を福祉施設がすべきではと疑問を抱くようになって…。ただ、都の職員という立場ではできないことが限られてくる。そこに歯がゆさを感じ、自分で福祉事業所を立ち上げることにしたんです。せつかく

作るなら、今までにない福祉事業所に挑戦したくて、お花屋さんを選びました。花の仕事なら商品が世間の人の目に触れ、自分の仕事で人を喜ばすことができることを障がい者スタッフが実感できると思ったからです。
——不安はなかったですか？
光枝さん…福祉事業所をやりたかと思つたものの不安だらけで、独立の一步を踏み出すまでに5年ほど悩みました。アプローズを立ち上げて8年になりますが、今でも心配事は尽きません。ただ、考えすぎると不安な気持ちがあふく一方なので、目の前にあるやるべきことをがむしゃらにこなし、走りながら考えるようにしています。失敗したら軌道修正する感じです。

また、就職が決まったスタッフから、「人生を立て直すことができました」といったメッセージをいただきました。
ジをいただくこともあり、心底から励まされています。長年引きこもりだった方が劇的に変わり、最後は晴れやかに卒業していく姿を見ると、やっつけてよかったと実感します。
——とてもパワフルですが、その原動力とは？
光枝さん…ゼロから考えを現実させるために行動し、形になっていく過程を見ることが本当に楽しい。そのワクワク感が原動力です。ただ、心が健康でない、この仕事は続けられないので、心のケアには気をつけています。入浴しながら、自分に対し「大丈夫だよ、頑張ってる！」と励ますようにしたり(笑)。自分のことを一番責めるのって自分だったりしますよね。そして、応援するのも自分。だから、なるべく自分を好きになって応援してあげるようにしています。

去年出産し、ママとなった光枝さん。息子さんの顔を見ると疲れが吹き飛ぶそうで、存在が心の支えになっています。

ミュージアの美のヒケツ!



代表理事
光枝茉莉子さん
Mariko Mitsueda

第十八回

Profile

大学卒業後、東京都に入社し、東京都福祉保健局で障がい者を支援する仕事に携わる。2014年にフラワーアレンジメントの技術を学べる障がい福祉事業所、アプローズ南青山を開設。2021年には東京都認証ソーシャルファーム事業所アプローズガーデン開設。オンラインのフラワーショップBISTARAI BISTARAIも展開中。